

2017年（平成29年） 6月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/15～6/21のNYMEX・WTIは42.53～44.74ドルの40ドル前半で弱含みに推移した。

6月22日は、前日の10カ月振りの安値への反動から安値拾いの買いが入り、4営業日振りに反発した。ただ、減産協定から免除されているリビア・ナイジェリアや、米国のシェールオイルの増産傾向など、供給過剰感も根強く上値は重かった。8月限の終値は前日比0.21ドル高の42.74ドルだった。

週末23日は、週末を控えたポジション調整や安値拾いの買いに加え、OPEC・非OPRCの監視委員会が5月の協調減産実施率が最高の106%に達したとの発表もあり、続伸した。ただ、ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が758基（前週比11基増、23週連続増加）との発表が上値を抑えた。8月限の終値は前日比0.27ドル高の43.01ドルだった。

週明け26日は、週末発生した熱帯低気圧の影響でメキシコ湾沿岸の原油出荷に支障をきたすとの懸念や、ドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感により、3営業日連続で続伸した。8月限の終値は前週末比0.37ドル高の43.38ドルだった。

27日は、ドラギ欧州中銀（ECB）総裁の金融引き締め発言を契機としたユーロ高・ドル安の進行に伴う割安感、同日夕刻と明日に予定される米国官民の原油在庫週報の減少予想により買い進まれ、続伸した。8月限の終値は前日比0.86ドル高の44.24ドルだった。

28日は、米国エネルギー情報局（EIA）の在庫週報で、原油は予想に反し積み増したものの、ガソリンの予想を上回る減少、原油生産の前週比10万バレル減少が報告されたことから、5営業日続伸した。8月限の終値は前日比0.50ドル高

の44.74ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）は、前週44.50～45.70ドルで弱含みに推移した。6月22日は43.50ドル、23日は44.00ドル、26日は44.70ドル、27日は44.80ドル、28日は45.30ドルで推移した。

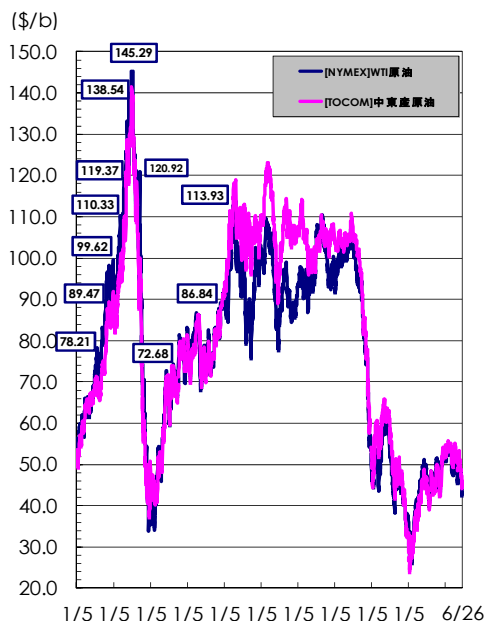
為替は、前週109.72～111.77円の範囲で推移した。6月22日は111.14円、23日は111.37円、26日は111.28円、27日は111.95円、28日は112.08円で推移した。

財務省が29日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、36,733円/klとなり、前旬を1,205円下回った。ドル建てでは、52.25ドルで前旬比1.04ドル安。為替レートは1ドル/111.77円。

主要元売会社の7月第1週に適用する卸価格は、ガソリンは0.5円の値下げと据え置きに、中間留分は0.5円と1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートは円安だったが、原油価格の下げ幅のほうが大きく原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月26日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値下がりの130.6円、軽油は0.3円値下がりの109.9円、灯油は0.3円値下がりの76.3円だった。ガソリン、軽油は3週連続の値下がり、灯油は10週連続の値下がりとなった。この週（6月第4週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は0.5円の値下げと0.5円の値上げに分かれた。

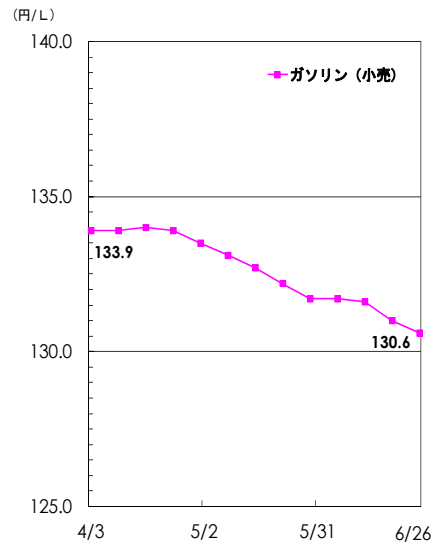
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/18 ~ 6/24	3,133 ▲ 49	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.0 ▲ 1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/24	12,095 ▼ -1,268	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	6/26	45.28 ▼ -0.78	▲ 0.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/26	43.38 ▼ -0.82	▼ -3.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	52.25 ▼ -1.04	▲ 6.97
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	36,733 ▼ -1,205	▲ 5,847
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.77 ▲ 1.41	▼ -3.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/26	112.28 ▼ -0.25	▼ -9.10



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/18 ~ 6/24	956 ▲ 29	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	938 ▼ -27	▼ -	
	輸出	"	60 ▲ 6	▲ -	
	在庫	6/24	1,850 ▼ -42	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/20 ~ 6/26	48.7 ▲ 0.5	▲ 5.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ~ 6/26	45.9 ▼ -0.6	▲ 2.2
		(TOCOM/中部)	6/26	46.9 ▲ 0.4	▲ 4.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/26	130.6 ▼ -0.4	▲ 6.6	

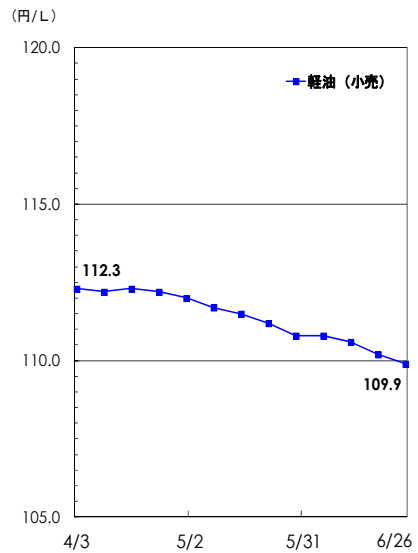
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

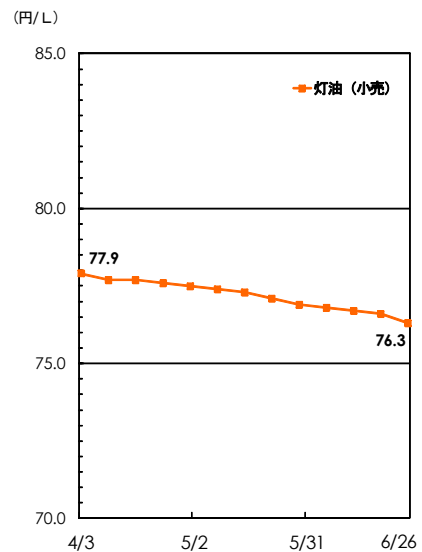
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/18 ~ 6/24	777 ▼ -12	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	664 ▲ 62	▲ -	
	輸出	"	104 ▼ -57	▼ -	
	在庫	6/24	1,463 ▲ 8	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/20 ~ 6/26	46.8 ▼ -0.2	▲ 5.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ~ 6/26	48.0 → 0.0	▲ 7.8
		(TOCOM/中部)	6/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/26	109.9 ▼ -0.3	▲ 6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/18 ~ 6/24	152 ▲ 5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	112 ▲ 32	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -3	→ -	
	在庫	6/24	1,520 ▲ 40	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/20 ~ 6/26	45.6 ▲ 0.2	▲ 5.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ~ 6/26	43.9 ▼ -0.4	▲ 4.0
		(TOCOM/中部)	6/26	43.8 ▼ -0.8	▲ 4.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/26	76.3 ▼ -0.3	▲ 12.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月28日のNYMEX市場WTI原油は、この日の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、最新週の原油在庫が前週比10万バレル増加と市場予想(同250万バレル減)に反したものの、ガソリン在庫が同90万バレル減少と市場予想(60万バレル減)を下回り、原油生産量も前週比10万バレル減と減少を示したことから、行き過ぎた供給過剰感が後退し、5営業日続伸した。引き続き、ドル安・ユーロ高基調による割安感も、買い戻しの動きを後押しした。8月限の終値は前日比0.50ドル高の44.74ドル、9月限の終値は前日比0.50ドル高の44.99ドルだった。

EIAによると、6月26日時点のガソリンの小売価格は前週比3.0セント値下がりの1ガロン2.288ドル(67.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.4セント値下がりの2.465ドル(73.0円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月18日～6月24日に休止したトッパー能力は54.9万バレル/日で、前週に対して9.8万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は313.3万klと、前週に比べ4.9万kl増加。前年に対しては24.1万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては0.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.1%増、ジェット/12.2%減、灯油/3.5%増、軽油/1.5%減、A重油/6.3%減、C重油/18.8%減。今週のC重油の輸入は6.7万kl(前週比3.9万kl増)。軽油の輸出は10.4万kl(前週比5.7万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリンのみが減少し、その他の油種で増加した。前年比では、ガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は93.8万kl(対前週2.8%減)と2週振りに前週比、前年比で減少となり、4週連続で100万klを下回った。

ジェット16.2万kl(対前週84.6%増)、灯油11.2万kl(対前週40.4%増)、軽油66.4万kl(対前週10.4%

増)、A重油20.5万kl(対前週15.8%増)、C重油20.0万kl(対前週2.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/18 ~ 6/24)	前週 (6/11 ~ 6/17)	前週比
ガソリン	938	965	▼ -27 (-3%)
ジェット燃料	162	88	▲ 74 (84%)
灯油	112	80	▲ 32 (40%)
軽油	664	602	▲ 62 (10%)
A重油	205	177	▲ 28 (16%)
C重油	200	196	▲ 4 (2%)
合計	2,281	2,108	▲ 173 (8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月24日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは185.0万kl、前週差4.2万kl減。前年に対して1.7万kl多い。

灯油は152.0万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては30.2万kl少ない。

軽油は146.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては2.5万kl多い。

A重油は77.4万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては2.8万kl少ない。

C重油は211.9万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては15.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/24)	前週 (6/17)	前週比
ガソリン	1,850	1,892	▼ -42 (-2%)
ジェット燃料	1,095	1,148	▼ -53 (-5%)
灯油	1,520	1,480	▲ 40 (3%)
軽油	1,463	1,455	▲ 8 (1%)
A重油	774	803	▼ -29 (-4%)
C重油	2,119	2,070	▲ 49 (2%)
合計	8,821	8,848	▼ -27 (-0.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月20日から26日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートはやや円安であったが、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン102円台でやや強含み、軽油46円台でほぼ横ばい、灯油45円台でやや強含みで推移した。海上スポット価格は、ガソリン103~104円台で連日動き、軽油47~48円台で強含み、灯油43~44円台で強含みで推移した。

先物価格は、ガソリン98~100円台で強含み、軽油48円台で横ばい、灯油43~44円台で強含みで推移した。元売の

卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、0.5円の値下げから0.5円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がりし、製品スポット市況は、陸上のガソリン・灯油と海上の軽油が値上がりし、先物の軽油が横ばい、それ以外は値下がりし、全体として値下がりした。週間のガソリン販売量は、2週振りに前年割れ、4週連続で100万kl割れとなった。

7月第1週(6月29日~7月5日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月20日~6月26日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円の値上がり、軽油は0.2円の値下がり、灯油は0.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、軽油は0.5円の値上がり、灯油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は0.4円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替はやや円安であったが、原油コストは値下がりとなった。

7月第1週の大手元売の卸価格は、0.5円の値下げと据え置きに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/20 ~ 6/26)	前週 (6/13 ~ 6/19)	前週比
レギュラー	48.7	48.2	▲ 0.5
灯油	45.6	45.4	▲ 0.2
軽油	46.8	47.0	▼ -0.2

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/20 ~ 6/26)	前週 (6/13 ~ 6/19)	前週比
レギュラー	45.9	46.5	▼ -0.6
灯油	43.9	44.3	▼ -0.4
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/20~6/26実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▼ -0.6	▼ -0.1
灯油	▲ 0.2	▼ -0.4	▼ -0.1
軽油	▼ -0.2	▶ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値下がりの130.6円、軽油も前週比0.3円値下がりの109.9円、灯油は前週比0.3円値下がりの76.3円だった。ガソリン、軽油は3週連続の値下がり、灯油は10週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは4県、横ばいは1県、値下がり42都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、徳島県の123.9円(前週比0.5円安)、次が滋賀県の125.6円(同1.4円安)だった。最高値は沖縄県の139.9円(同0.1円安)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.2円高の鹿児島県(138.8円)・大分県(135.8円)、最も値下がりした県は同1.6円安の神奈川県

(127.9円)、横ばいが香川県(131.8円)だった。

原油コストは値下がりし、元売りの卸価格も0.5円の値下げと0.5円の値上げに分かれ、3週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートはやや円安であったが、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、0.5円の値下げと据え置きに分かれた。次週(7月3日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが見られる。

(資工庁公表) (単位: 円/ℓ)

[週動向]	今週 (6/26)	前週 (6/19)	前週比	直近高値
レギュラー	130.6	131.0	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	76.3	76.6	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	109.9	110.2	▼ -0.3	08/8/4 167.4

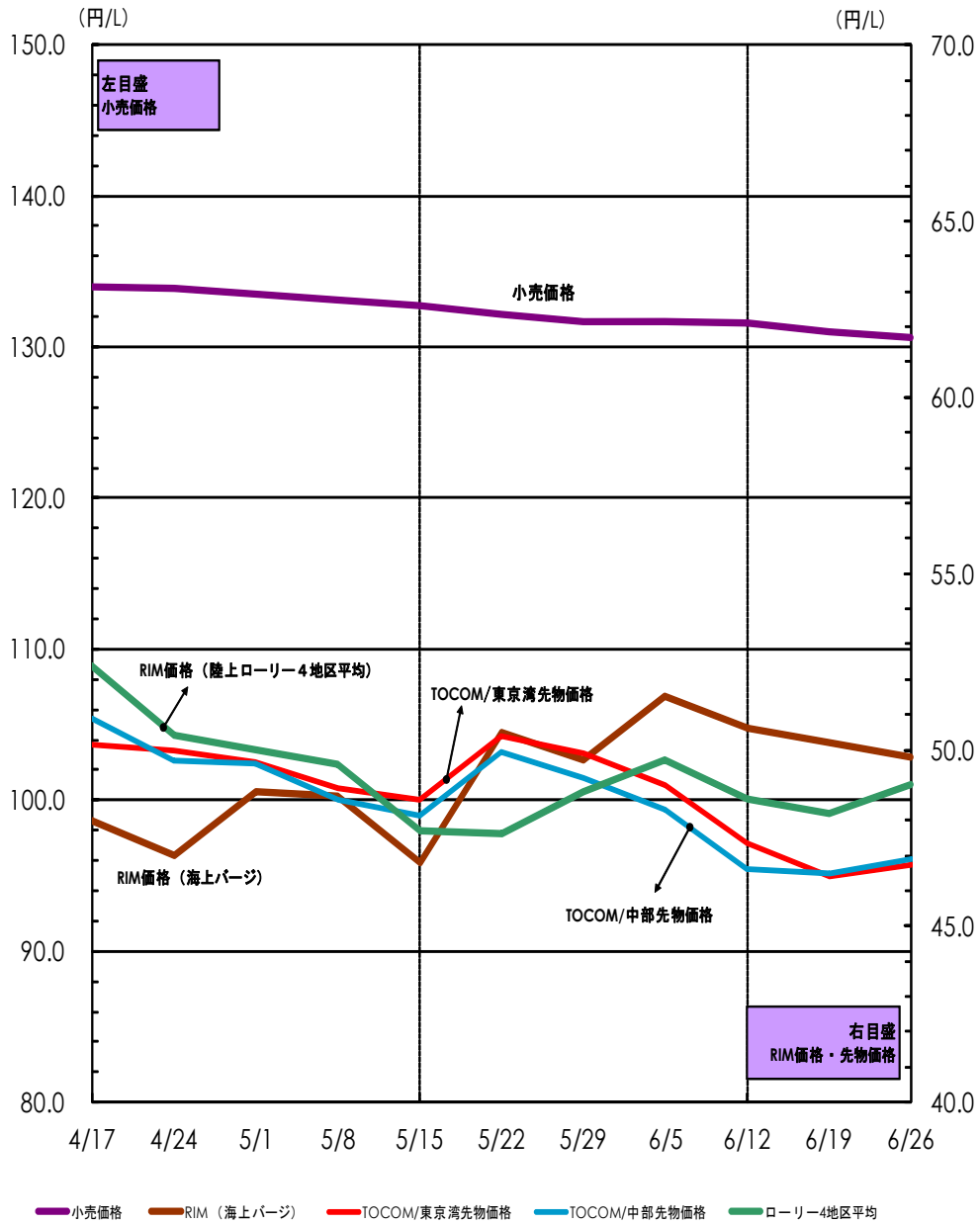
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/4/17 ~ 2017/6/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第13号)の公表は、7/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。